

劔岳山行記

80 座目の日本百名山登頂

2020 年 8 月 23 日～25 日

ハンブルクの星（団体ツアー参加）

8 月 23 日（日）

劔岳に別山尾根ルートで登頂した。参加者 18 名、ガイド講師 1 名と付き添いガイド 2 名の全 21 名の団体ツアー登山に参加。講師は元浜松労山会員の N さん。約 15 年ぶりの再会か。岩稜登山ツアーとしてこれまでも谷川岳他の企画を実施してきたとのこと。

室堂センターを 12 時 10 分に出発して雷鳥沢経由で劔御前小舎に向かう。麓は晴れていたが室堂センター周辺はガスが出てきて周囲の眺望は今一つ。ミクリガ池を通して雷鳥沢で一息入れる。この後、浄土橋を越えて別山乗越にある劔御前小舎までの登り。14 時半ごろには小舎に到着。小舎からの眺望は依然としてガスで遮られていた。小舎には他の登山客は少なく、ほぼ貸し切り状態だった。この後、30 分ほど雨になったが、雨が上がると劔岳がデーンと聳えるように虹をともなってその姿を現した。夕焼けは奥大日岳方面を染めての落日となった。



1. 劔御前小舎から望む劔岳

8 月 24 日（月）

朝、6 時に小舎を出発して劔沢方面に下っていく。20 分ほどで到着してここから劔山荘方面への緩い上りとなる。劔岳は快晴の青空の下、よく見えている。劔山荘で 1 本とってから、一服劔に向かったの急な登りが始まる。ほどなくして最初の鎖場①となる。この辺りからは眼前に前劔の大きな岩山が聳えるように立っているのが望める。



2. 一服剣から前剣を望む

ここから鎖場②を経て武蔵野コルへ。長いガレ場を登って行くと鎖場③の大岩を右手に見ながら通過。そして稜線にいったん出たからトラバース気味に進んでやがて鎖場④を経て、前剣頂上へ。ここまで登ってきたルートを見るとかなりの高度感も出てきた。前剣山頂から下りとなり、やがて 4m ほどの鉄製ブリッジに至る。

1 人ずつ慎重に橋を越えて鎖場⑤を右へトラバースしながら慎重にすすむ。もし足でも踏み外したらかなりの滑落になってしまう箇所だ。

そして鎖場⑥の急な下り地点となる。この日は 5 人ずつの 4 グループに分かれての団体行動で私はちょうど第 4 グループだったので事故現場を見ていなかったが、先の方でズドンというかなり大きな音とともに悲鳴が聞こえてきたので全員が鎖場で一瞬立ち止まった。



3. 鎖場⑤のトラバース

暫くしてから慎重に降りていくと先行していたグループのメンバーの 1 人が数メートル滑落してハイマツ帯で辛うじてとどまって動けない状態。なんとか彼女を介助しながら下の前剣の門の鞍部まで移動させてここで応急処置を施すも、どうやら骨折の疑いあり。

N 講師が剣御前小舎経由で救助ヘリを要請。けが人に N 講師と付き添いガイド 1 人が残ってヘリの救助を待つことになった。休憩を入れて、気持ちを取り直す。そして残りのメンバー 17 人と付き添いガイド 1 人でさらに登山を進めることになった。



4. カニのたてばい

岩場はさらに続いて鎖場⑦を経て、スラブ状の岩壁の平蔵の頭を越えて鎖場⑧へ。この辺りからはいよいよカニのたてばい（鎖場⑨）の大岩壁がそそり立っている場所に至る。



5. 富山県警の救助ヘリ

丁度、この頃に富山県警の救助ヘリが前劔の門の鞍部上空に差し掛かり、ホバリ

ングを繰り返してけが人を収容してから富山市内の病院へ向けて飛び去って行くのを見届けた。

我々は各グループごとに岩壁に取り付いて、鎖と足場を確認しながら慎重に三点支持を確保しながら徐々に上へ上へと登る。登り切ったところに下りルートのカニのよこばいの鎖とプレートの標識があった。こちらの方が下りなのでさらに緊張を強いられそう。ともあれ更に昇って行くとやがて早月尾根ルートとの分岐点に至る。さっきまで青空で展望抜群だったのにここら辺りからガスが始め、徐々に濃くなる。



6. 劔岳山頂

やがて山頂の祠が見え始めて遂に劔岳山頂に立つ。これで日本百名山 80 座目。360 度の大展望を期待していたがガスが薄っすらとかかっている、眺望は見え隠れしているが、東には白馬岳、鹿島槍、五竜の後立山連峰、西には早月尾根の陰

しい尾根が続いている。南には今登ってきた別山尾根ルート上の前劔、一服劔が眺望できた。記念に山頂の祠の前で撮影。



7. 劔岳山頂から望む早月尾根

30分ほど山頂で休憩してから下山開始。すぐにかにのよこばい(鎖場⑩)の地点。左下方に大きくトラバース気味に下っていくが、鎖を頼りにしながら足のホールド先を慎重に確認して、下って行った。



8. カニのよこばい

すると20段ぐらいある、ほぼ垂直に立つ長い梯子が出てきて、ここも慎重に一段ずつ降りた。降りきると今は使用されていない廃屋があるところに出た。ここで先ほどまで救助に付き添っていたガイド1人が合流。さらに下りの鎖場⑪を過ぎて、平蔵の頭を左に巻きながら鎖場⑫を経て、ガレたなだらかな下りになり、前劔の門に至る。ここで講師Nさんとも再び合流。

ここからは下り専用ルートの前劔山頂を左に巻きながら急な鎖場⑬を登り返す。そして鎖場⑭を経て一旦稜線に出てから、鎖場⑮の大岩を下って、長いガレ場を下っていく。この頃、雨が降り出す。カップの上だけ着て、急ぎ足で下る。疲れからか先行のメンバーが二人ほど転倒していた。長いガレ場をやっと過ぎて武蔵のCOLを経て、一服劔までの登り返しを上る。疲れも少し出てきた。

降っていた雨は暫くして上がったが少し濡れた鎖場⑯、鎖場⑰を経て、これで全部の鎖場を通過して一安心。さらにどんどん下って劔山荘に戻る。

危ない箇所を全て過ぎてやれやれだ。

剣山荘で 10 分ほど休憩してから劔沢小屋へ向かう。再び雨が降り出して、今度は本格的な雨となり、カッパの上・下を着る。劔沢からは約 1 時間ほどの緩いが、結構疲れた体にはこたえる、最後の上りとなる。16 時前にやっと劔御前小舎に帰着。この頃土砂降りになっていた。

8 月 25 日 (火)

この日も朝の天候は快晴。朝焼けの劔岳の奥に後立山連峰の白馬岳、鹿島槍ヶ岳、白馬岳のシルエットが美しい。7 時ごろに小舎を出発して、室堂センターへ向けて下山した。雷鳥沢への雷鳥坂をゆっくり下る。左手には富士ノ折立、大汝山、雄山の立山三山が、右手には奥大日岳がよく見える。雷鳥沢で小休止してから地獄谷やミクリガ池を眺めて、室堂センターに帰着。

北アルプスの日本百名山で唯一未踏だった劔岳に別山尾根ルートで登頂出来た。これで日本百名山は丁度 80 座目だ。

劔岳登頂時に天候に恵まれたことが幸運だった。参加メンバーの一人が手首と足首を骨折するという重傷事故が発生したが、その後も全員が冷静に、慎重に、劔岳を登頂し、無事下山出来たことがなによりだった。

【行程】

8 月 23 日 (日)

5:00 浜松発

11:50 室堂センター到着

12:10 室堂センター出

12:50 雷鳥沢

14:30 劔御前小舎着

8 月 24 日 (月)

6:00 劔御前小舎出発

6:30 劔沢

7:00 劔山荘

7:30 一服劔

8:20 前劔

9:00 前劔の門の鞍部

(滑落事故者の対応で暫く待機)

10:00 平蔵の頭

10:20 カニのたてばい

11:00 ~ 11:30 劔岳山頂

11:45 カニのよこばい

12:30 前劔の門の鞍部

13:00 前劔

13:40 一服劔

14:00 劔山荘

14:40 劔沢

15:50 劔御前小舎帰着

8 月 25 日 (火)

7:00 劔御前小舎出発

8:00 雷鳥沢

9:20 室堂センター帰着

20:00 浜松帰着

文責： 谷 晃